

本試題是否可以使用計算機：可使用，不可使用（請命題老師勾選）

一、試將下列日文文獻譯為中文(25%)

この島の美を歌ひ情緒を歌ひ風俗と神秘とを歌つた高踏派の詩人として有名な西村氏には、淡□とした詩情には満ちた「雲林記」なるシケツチ風の小説がある。氏の歌ふ力の源泉は雲林なのである。雲林へ行くごとに西村氏は新しい歌ふ力を得て帰つてゆくのだつた。美を追求した氏は次に善と真とを歌ひたくなつたのであろう。そこで思ひ出の場所、浪漫の町、歴史の土地へ再び生命の火をもやしに來たのである。

—葉石濤「春怨」、『文藝台灣』第6卷第3号、1943年7月
（『葉石濤全集1 小説卷一』、30頁）より—

二、試將下列日文文獻譯為中文(25%)

音読から黙読への移行は、このような出版文化自体の変貌と読書観の変化の結果として捉えられる。すなわち、出版物の増加によって消費すべき情報量が増加し、それは人□に解読スピードの全般的な上昇を要求した。もはや音読による反復熟読的な読書法では対応できなくなってきた。また、出版技術の向上によって、出版物の版面においても視覚的に読みやすい工夫が加えられ、黙読しやすくなったことも大きい。

—永嶺重敏『雑誌と読者の近代』、
日本エディタースクール出版部、1997年、74頁より—

三、試將下列外文文獻譯為中文(25%)

そもそも、ソシユール以降、ポストモダニズムにいたるまでの言語論に基づいて、言語という記号がその外部の現実なるものと恣意的な関係しか持ち得ないということを認めても、そのことがただちに歴史のテキストの恣意的な解釈につながることはあり得ないはずである。それがどのようにでも解釈されるということは、実際問題としては起こり得ない。なぜならば、解釈はつねに共同的なものとしてしか存在しないからである。歴史のテキストの解釈は純真無垢の一人の歴史学者によってなされるものではなく、過去及び現在の歴史家共同体の存在に支えられながら行われるのであり、歴史家として研究をするというのはまずその存在を受け入れたときにのみ可能になる作業だからである。（富山太佳夫 2002『岩波講座文学9 フィクションか歴史か』岩波書店、p. 32）

四、試將下列外文文獻譯為中文(25%)

隱語は俗諺と同じ様に、その行はれて居る社会の様相を実に端的に示して居るものであり、又一面より見て、或る特殊なる社会的事象は往□にして、隱語の発生を要求するものである。我国の「薩摩守」「辻君」「一六銀行」「猫婆」「つばめ」「猫」など、我国社会間に発生存在する或る事象に対して与えられたる隱語であると考へることが出来るであらう。更に、隱語の発生にはその民族の持つ言語的豊饒さや言語そのものが自働的或は被働的に受け來つた訓練も重大なる条件のひとつとなるであらうが。（香坂順一「隱語より見たる広東社会相（一）」『民俗台灣』昭和十八年、第三卷第三号）